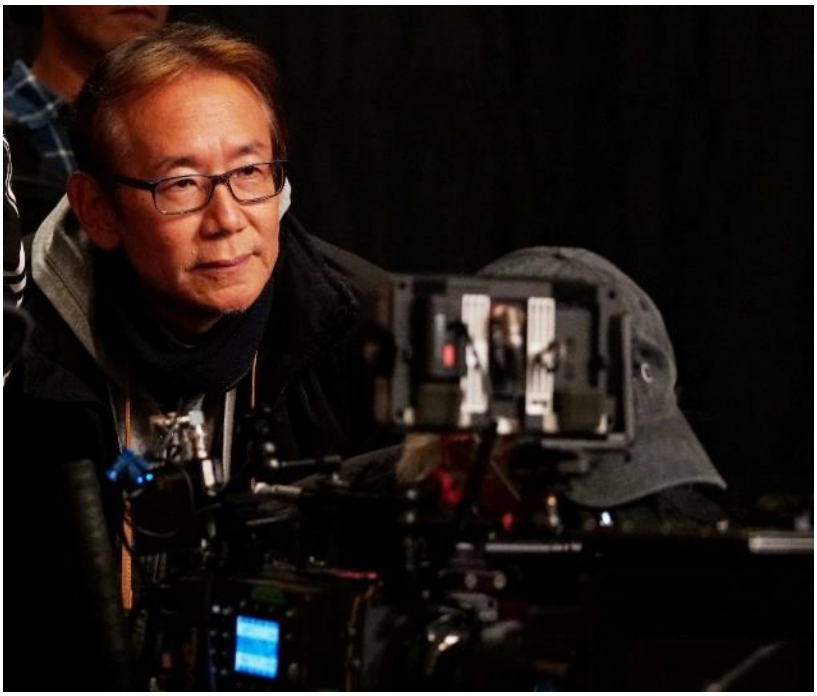
2023 年度南山大学法学部・法学会共催秋季講演会

映画『それでもボクはやってない』を作った理由から再審法改正まで



講師

映画監督 周防正行 氏

《本講演会のテーマに関する周防監督の著書》

『それでもボクはやってない―日本の刑事裁判、まだまだ疑問あり!』
（幻冬舎、2007年）

『それでもボクは会議で闘う―ドキュメント刑事司法改革―』
（岩波書店、2015年）

映画『それでもボクはやってない』の監督として、また「新時代の刑事司法制度特別部会」委員としてのご経験を踏まえ、刑事司法の問題点、再審法改正へ向けた展望など、冤罪・再審をテーマにご講演いただきます。

日時　12 月 6 日（水）
11 時 05 分～12 時 45 分

会場　フラッテンホール（R 棟）

《周防監督のプロフィール》

1956年生まれ。東京都出身。

立教大学文学部仏文科在学中、映画評論家の蓮實重彦の講義を受けたのをきっかけに映画監督を志し自主映画を製作し始める。高橋伴明監督に志願し電話番からキャリアをスタート。助監督として年間 10 本以上の作品に参加し高橋伴明監督はもとより若松孝二監督、井筒和幸監督らの作品にも参加。

1989年、本木雅弘主演『ファンシイダンス』で一般映画監督デビュー。第16回日本アカデミー賞最優秀作品賞をはじめ、数々の映画賞を受賞。
1996年の『Shall we ダンス?』では、第20回日本アカデミー賞最優秀賞13部門独占受賞。同作は全世界で公開され、2005年にはハリウッドリメイク版も制作され、2013年に宝塚歌劇団にて舞台化された。

2007年公開の『それでもボクはやってない』では、日本の刑事裁判の内実を描いてセンセーションを巻き起こし、キネマ旬報日本映画ベストワンなど各映画賞を総なめにし、2008年、第58回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

2011年 6 月に発足した法制審議会「新時代の刑事司法制度特別部会」の委員に選ばれる。
同年には巨匠ローラン・プティのバレエ作品を映画化した『ダンシング・チャップリン』を発表。2012年『終の信託』では、終末医療という題材に挑み、毎日映画コンクール日本映画大賞など映画賞を多数受賞。2014年の『舞妓はレディ』では、個性的な歌と踊りとともに京都の花街を色鮮やかに描き出し、2018年には博多座で舞台化され好評を博した。
2016年、紫綬褒章を受章。
2018年、立教大学相撲部名誉監督就任。

2019年より「再審法改正をめざす市民の会」共同代表としても活動。

最新映画作品は、映画がまだサイレント（無声）だった大正時代に大活躍した活動弁士たちを描いた『カツベン!』（2019 年公開、第 43 回日本アカデミー賞優秀監督賞他受賞）。
現在、総監督を務める、1992 年公開の映画から 30 年後の教立大学相撲部を描くドラマ「シコふんじゃった!」が、Disney+にて配信中（全 10 話）。